

鄭樵爾雅ノ註ノ蔦ナリ

〔和漢三才圖會八十五〕

寓木桑寄生

久和乃也止里木略

○中

按嫩樹無寄生而養蠶之地老桑亦多故眞者難得唯隱岐及肥前五島有之俗以爲中風要藥貴之

〔本草辨疑四〕桑上寄生

古來桑耳ヲ以テ寄生ニ充ツ故ニ今依御改桑寄生ト不言サルノヨシカケト云ナリ眞ノ寄生ハ

唐ヨリ來テ木ノ色黃ニ葉細ク長ク木葉共ニ桑ニシテ脆ク厚ク剝易キ者ナリ是亦僞多シ

蘇恭曰此多生楓柳水楊等樹上葉無陰陽如細柳葉而厚脆莖粗短子黃色夫如小棗惟虢州有

桑上者子汁甚黏核大似小豆九月始熟

時珍曰須自采或連桑采者乃可用世俗多以襍樹上者充之氣性不同恐反有害也

日本ニモ松柳ニ寄生多シ桑ニ有コトヲ不聞松柳ニ生ズル者今唐ヨリ來ル者ト不異時珍モ

桑ヲ連タル者ヲ眞トシ用ル時ハ今ノ唐桑モ不連又和ノ松柳ノ生ニ能似タル物ナレバ是ヲ

眞トハサダメ難シ唯桑中ヲ自尋求メテ可用不正者ハ不可用

〔圓珠庵雜記〕やどり木をほやといふ和名にみえたり萬葉にはほよとよめり

和名抄木類寄生和名一夜止里萬葉十八あし引の山のこぬれのほよとりてかざしつくらば千

とせほぐとぞ

〔草木育種後編上〕下種之事

駿州に拾山茶等ひよかまつばきに生ずる寄生あり形扁柏ひのまきに似たりこのもの寄生したるをひのき山茶といふ

寛保年中將翁先生鈴鹿郡高宮村より採り官に奉り灌園先生云此木の下へ諸の常盤木を栽置

し事あり即此ものなり一名あやつばきともいふ灌園先生云此木の下へ諸の常盤木を栽置



は實落て自ら寄生を生ずおよそ實を撰ぶには中心の實を上とす枝に付實は下品なり